多高通信

第162号 平成31年1月29日発行

さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

トレーニング講習会

12月15日、山形大学地域教育文化学部や仙台白百合女子大学において非常勤講師を勤めている株式会社アクティブライフの沼田尚さんを講師にお迎えし、運動部合同のトレーニング講習会を行いました。この講習会は、トレーニングの基礎について正しい知識と方法を知り、今後さらに効果的な練習を行うための一助とすることを目的として、毎年実施されています。

生徒は様々なトレーニングを学び、競技の枠を越え、スポーツに対する新しい視点を得ることができました。

■櫻井 祐花（2年6組 多賀城二中出身）

昨年に続いて、今年も講師の沼田さんにトレーニング講習会という貴重な場を設けていただきました。スポーツをするにあたって、能力を向上させるための様々なトレーニング方法を実践しながら教えていただき、とても有意義な時間となりました。かなり体に負担のかかるきついトレーニングでしたが、これを継続してこそ意味があるのだと感じました。部活や種目によっては必要とする筋肉が全く異なるので、今回教えていただいたトレーニングの中でそれぞれに必要なものを今後の練習に継続的に取り入れていきたいと思います。

くらしと安全 WATALIS特別授業

12月20日、株式会社 WATALIS 代表取締役・一般社団法人WATALIS代表理事の引地恵さんら4名を講師としてお招きし、日本の服飾文化とリユースについての特別授業を行いました。本校の防災教育の一環として、被災地での自立企業 WATALIS の活動を紹介すると共に、古来行われてきた着物文化のリユースの観点からの製法技術の紹介と簡単な実習を行い、震災からの復興を総合的に考える学習活動につなげることを目的として実施しました。

WATALIS は古い着物地をリメイクし再び世に出す アップサイクル」文化を醸成するリメイク雑貨の製造販売を行っており、被災地である亘理町において、手仕事によるものづくりを通し、古き良き習わしや感謝の心をかたちにし、地域経済への活性化を目指す団体です。中古着物地のリメイク商品は、全国有名デパートでも取扱いされています。

■生徒の感想

○私は自分の好きなことを仕事にしたいと考えていますが、今回の引地さんのお話を聞いて、仕事をする理由の1つとして 誰かのために」 地域のために」という考えがあり、その中でやりがいを見つけていることが素敵だと思いました。（1組・女子）

○会社の利益だけを考えるのではなく、地元の活性化も視野に入れて、商品を展開していることが魅力的でした。外国人にも日本の文化が伝わるように、工夫されていることや、商品が Wonder（驚きのクオリティ）そのものであったことが印象に残っています。（4組・男子）

○ ありがとう」という気持ちを手作りのものに込めて渡すことを聞き、とても感動しました。地元の現状を理解し、地域経済の活性化に自ら取り組んでいる引地さんの取組から、自分も、地元で今、何が起こっているのかもっと理解しなくてはならないと考えさせられました。将来、人に感謝の気持ちを何かの形で伝えられるような仕事に携わっていきたいと思います。（6組・女子）

○震災前と後では生活は大きく変わってしまったけれど、皆さん前を向いて新しい取り組みを始めていてすごいな、と思いました。WATALIS の取り組みのように、身近な方法で復興に携われることを知ることができてよかったです。（7組・女子）

古着の着物が…

…缶バッジに生まれ変わりました！

高校生が被災地で考える 防災サミット in Fukushima

12月25日から27日の3日間、「高校生が被災地で考える防災サミット in Fukushima～原発と私たちの未来を描く～」に生徒代表2名が参加しました。全国の原発所在道県の高校生約40名（17校）が福島県のJヴィレッジに集い、被災地を見学したあと、テーマに沿ったワークショップを行い、意見発表と提言を行いました。

1日目は、環境省が管理運営する特定廃棄物埋立情報館 「プルンふくしま」と特定廃棄物埋立処分施設、そして福島第二原発のそれぞれを見学。Jヴィレッジでは4つのテーマごとの班に分かれ、最終日の意見発表・提言に向けワークショップを始めました。夜は、避難時宿泊体験も行いました。

2日目は、ワークショップと発表の準備をしました。コーディネーターの開沼博・立命館大学衣笠総合研究機構准教授の指導助言のもと活発な意見交換を行いました。

3日目は、ワークショップで話し合った内容を意見にまとめそれぞれの“提言”として発表。福島県内の行政・教育関係者・一般参加者ら合わせて約220名が来場しました。安倍昭恵首相夫人も訪れ、「自分で行動し経験したものを、広く世界と未来に発信してほしい。」と期待を寄せて下さいました。

阿部昭恵夫人との記念撮影

■木下 有優（2年7組 中田中出身）

私の班のテーマは 数値化されにくい災害被害について考える」というものでした。話し合いは難航し、その日の午後の中間発表ではまだ白紙のような状態でした。何度も話し合いを重ね、時には振り出しに戻ってしまう事もありました。気付いた時には次の日になっていて、前日リハをやったのは次の日の午前3時、そこから講師の先生にアドバイスを頂き、なんとか形になったのは午前4時前でした。それでもなんとか自分達の納得いく形にまとめることができたと思います。

今回のサミットのような、日本中の人と遅くまで話し合いを重ねる機会は人生の中でもとても貴重な経験だったと思います。今回の繋がりを大切にしながら、これからの活動に生かしていけるように頑張ります。

ワークショップは夜遅くまで続きました。

ベストプレーヤー賞総なめ！ 軽音楽部 ESP ハイスクールバンドバトル

12月25日、ライブハウス SENDAI HooK で ESP SENDAI ハイスクールバンドバトル Vol.10 が行われ、本校軽音楽部を代表して、2年生バンド・あめいろのラムネが出場しました。演奏後の審査員による講評では 何もコメントすることがない」と言わしめるほどの圧倒的なステージを披露し、パート別のベストプレーヤー賞をメンバー3名全員が受賞する快挙を達成しました。

■昆野 小春（2年1組 高崎中出身）

私たちあめいろのラムネは、多賀城高校軽音楽部の代表として今回の ESP バンドバトルに出場しました。辛い練習を重ね、辞めたくなることもありましたが、メンバー全員が各パートのベストプレーヤー賞を頂くことができました。演奏直後はうまくいったという実感があまり湧かなかったのですが、たくさんのお褒めの言葉を頂き本当にうれしかったです。

来春には夏の大会に向けた部内オーディション が控えており、部員全員が互いに切磋琢磨しながら頑張っています。これからも軽音楽部の応援をよろしくお願いします。

生徒会視察

神戸へ行ってきました！

12月26日、27日の2日間、生徒会が神戸の人と防災未来センター、神戸大学附属中等教育学校、マクセル株式会社に視察へ行きました。今回は生徒会のメンバーが作成した報告記事をご紹介します。

・・・・・・・

私たちは兵庫県に着くと、初めに「人と防災未来センター」を訪問させていただきました。ここでは、阪神・淡路大震災当時の写真や展示資料などを通して甚大な被害を学びました。当時の地震のすさまじさを大型映像と音響で体感できる「5:46 の衝撃」を見せて頂きました。朝方の地震だったということもあり、火災が同時に起こり、木造の建物は激しく燃えていました。震災を体験しているような迫力のある映像から東日本大震災とは異なる被害があったことを学びました。

震災当時の様子の写真などが展示されているコーナーでは、実際に震災を経験した語り部の方が当時の状況を細かく話をして下さいました。

次に、神戸大学附属中等教育学校へ向かいました。ここではまず、雰囲気を柔らかくするために、アイスブレイクの大嵐というゲームを神戸大附属さん主催でやって頂きました。ほとんど初対面の私たちでしたが、リラックスしてワークショップや話し合いに臨むことが出来ました。また、お互いに依頼・調査してきたことを報告し、その後、私たちからはクロスロードというワークショップを、神戸大附属さんからは様々な災害に備えて、インターネットを有効活用したハザードマップを作成するというワークショップを持ち寄りで行いました。

翌27日には、多賀城高校に災害用蓄電池を貸与して頂いていることに対するお礼として、マクセル株式会社を訪問し、電池を製造している工場内の見学をしました。そこでは実際に私たちが使用している乾電池や、スマホやモバイルバッテリーに使用している物など、多くの種類を製造していましたが、特に、リチウムイオン電池の製造工程にはあらゆる技術が詰め込まれており、私たちが何気なく使用している物にも、多くの方々の思いが込められているということを実感させられました。

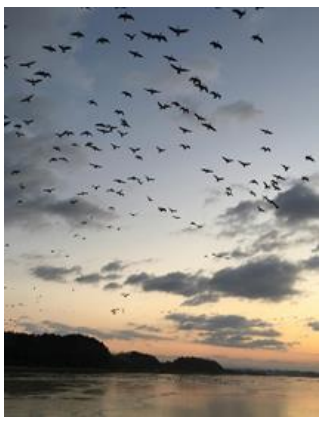
マクセル株式会社の皆さん

北海道滝川高校

SSH合同研修を行いました

北海道のSSH指定校である北海道滝川高校の生徒6名が、大崎市の蕪栗沼や伊豆沼での野鳥観察、気仙沼市での海洋実習、南三陸町・多賀城市における防災学習など、多面的に学ぶ環境学習プログラム「SSH 道外研修東北コース」のため、1月5日から9日の日程で宮城県を訪れました。これに合わせて、本校から有志7名が1月5日・6日のプログラムに参加しました。

ラムサール条約に登録されている伊豆沼、蕪栗沼、化女沼での自然保護活動に関する講義や、野鳥のねぐら入り、ねぐら立ちの観察といった内容は、参加した生徒にとって、とても新鮮な体験となりました。また、2日目の午後には滝川高校とお別れして、唐桑半島ビジターセンター＆津波体験館で津波の疑似体験を行い、昨年11月にオープンしたばかりの「宮城オルレ気仙沼・唐桑コース」にて、東日本大震災の津波によって巨岩が移動した“津波石”の観察や、明治津波の後に作られた“土塁”の観察を行いました。



■伊藤瑛玲奈（1年6組　東仙台中出身）

蕪栗沼と化女沼では、スコープをのぞいてオオハクチョウやマガンの生態を観察しました。また、マガンのねぐら入りの観察は人生初の体験でした。真上を集団で飛んで行く様子にとても感動しました。夜の交流会では、PowerPoint を使って学校を紹介し合いました。北海道の地名やお菓子、多賀城の史跡など、お互いに知らないことを紹介し合い、とても楽しい時間となりました。

2日目の朝は、5時半に起床してマガンのねぐら立ちを観察しました。とても綺麗な朝焼けの中、空一面にマガンが飛び交う風景に大きな衝撃を受けました。この他にも、ドローンの操縦や唐桑半島ビジターセンターでの津波体験など、普段では体験することのできない実習が多く、心に残る巡検となりました。この巡検を通して、私たちにとって身近な自然環境に目を向けることができ、渡り鳥の生息地となる沼や湿地の保全について深く考えさせられました。今後も宮城の自然を守るために知識を深めていきたいと思います。

NHK特別授業・教員研修会

1月10日、本校大講義棟（iRis Hall）において、NHK放送文化研究所メディア研究部　主任研究員の山口勝氏を講師にお迎えし、災害科学科1年生「社会と災害」「自然科学と災害B」特別授業を行って頂きました。NHKの8K映像を活用した「命を守る」という視点での防災・減災の在り方や考え方について探究することができ、また、身近な「ネタ」を見つけるところ、あるいは些細な疑問から研究が始まるという事を学び、生徒たちは課題研究における研究テーマ設定のヒントを得ることができたようでした。

その後の教員研修会では、研究テーマをどう見つけ探究するか」～アジェンダセッティングと事実を繋ぐということ～という講演を頂きました。新学習指導要領における総合的な探究の時間の目的や指導のポイント、優れた研究事例の紹介、AO入試に対応させるための指導の在り方等について多くのヒントを得ることができ、SSH指定校として、課題研究の指導に対する本校教員の大きな指導力向上に繋げられる可能性のあるお話ばかりでした。

全国防災ジュニアリーダー育成合宿

1月10日から13日、兵庫県の国立淡路青少年交流の家等を会場に全国防災ジュニアリーダー育成合宿が行われ、本校生徒会から代表生徒4人が参加しました。これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を中心とした、4年計画で行われる防災会議の初年度として開催され、全国の32校から生徒72名が参加しました。

■箭子　優羽（1年4組　高砂中出身）

この合宿で、私の考えは大きく変化しました。家族や友人と話す当たり前の日々を以前よりも大切に過ごすようになりました。「命の重さ」「救える命」について深く考えた4日間は大きな経験として心に残りました。

■岩佐　唯花（1年5組　多賀城中出身）

自分たちが災害をどう伝えてゆくかで、未来の災害に対する行動や考え方が変わってゆくということを感じました。私たちは合宿に参加するまで阪神淡路大震災についてあまり知りませんでしたが、震災を経験していない世代であるはずの高校生が震災を語ることができることにとても驚きました。東日本大震災も、このような語り継ぎを続けるための行動が必要だと思います。

ユネスコスクール・ESD子どもサミット

1月12日、大牟田市で開催された「ユネスコスクール・ESD子どもサミット」に生徒会の代表3名が参加してきました。このサミットは各学校の取組を発表・紹介することにより、今後の「ユネスコスクール・ESD（持続可能な開発のための教育）」の取組の参考にし、今後の活動の充実を図ること、また生徒間交流の活発化をその目的としています。

本校の発表に対し、日本ユネスコ国内委員会委員・東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員の及川幸彦先生より「防災学習、自然科学学習、社会貢献活動、震災の記憶の伝承などに関してより体系的な活動を継続していってほしい」と講評を頂きました。